



日本脳炎ワクチン

B-10

👶 どんな病気ですか？

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスによっておこる病気です。急な発熱、頭痛、吐き気などで発症しますが、急激に意識が低下して、けいれんや昏睡（こんすい）状態になります。命をおとす率が約20～40%、後遺症を残す率も高いです。日本脳炎ウイルスに感染した患者さんの100～1,000人に1人が脳炎になると言われています。



日本ではウイルスを媒介するコガタアカイエカの活動時期に合わせて、夏から秋にかけて患者さんの報告があります。1960年代までは子どもを中心に

して年間数千人の患者さんが出ていましたが、国の予防接種対策や生活環境の変化により、1990年代以降はほぼ年間10人前後の報告に減りました。

ワクチンを広く接種するようになってから子どもの患者さんは減少し、現在では患者さんの中心は、高齢者です。しかしながら、2006～2015年の10年間では、小児例も8人報告されており、最も小さいお子さんは、生後10か月児でした。

患者さんは関東地方から西日本地方に多く見られます。日本以外でも、東南アジア、インド、ネパール、中国、朝鮮半島などを中心に毎年患者さんが多数でています。北海道は日本脳炎の定期接種の対象外でしたが、住民の国内の移動や海外渡航の可能性を考えて、2016年4月から定期接種になりました。

👶 ワクチンをいつ、何回接種しますか？



初回接種
標準的には3歳時に6日以上の間隔をあけて2回

初回から6か月以上
(おおむね1年を経過した時期)

第1期：生後6か月～90か月（7歳6か月）未満

第2期：9歳～13歳未満

日本脳炎ワクチンを計4回接種します。第1期接種の対象年齢は生後6か月～90か月（7歳6か月）未満です。標準的には、第1期の初回接種は3歳時に6日以上（標準的には6～28日）の間隔をおいて2回接種します。初回接種から6か月以上間隔をあけて（標準的には約1年後に）1回追加接種します。第2期は、9歳以上13歳未満（標準的には9歳）で1回接種します。最初から数えて計4回の接種になります。

日本脳炎患者さんが比較的多く報告される地域

や、日本脳炎が多発する海外地域に渡航する人などは、標準的接種年齢の3歳前、すなわち生後6か月を越えていれば、定期接種として接種することもできます。ただし、この場合は接種量が異なることに注意が必要です。（3歳以上：1回 0.5 mL、3歳未満：1回 0.25mL）



🐣 ワクチンの効果

第1期の最初の2回を接種するとウイルスを中和できる免疫（抗体）ができます。追加接種をすると免疫がさらに高くあがります。その後、徐々に下がっていきませんが、第2期接種でまた免疫が上がり、長く免疫が続くと考えられています。日本脳炎にかかるリスクを75～90%減らすことができます。



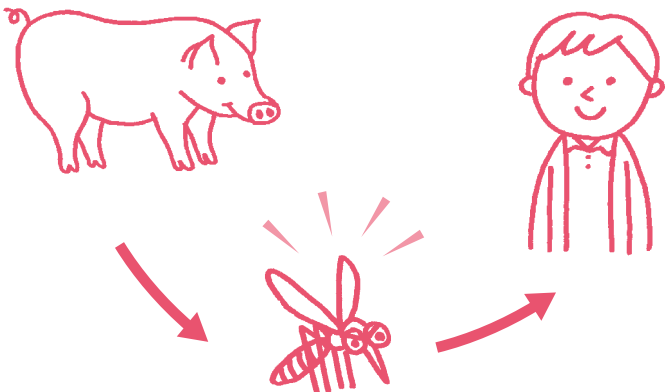
🐣 ワクチンの副反応

接種したところが赤くはれたりするのが3%未満、発熱も3%未満です。発熱は1回目の接種の3日以内に多く、2回目以降の接種では少なくなります。接種したところのはれは4回目に少し多いようです。

極めてまれ（0.001%未満）に、アナフィラキシー（重いアレルギー反応）、けいれん、急性散在性脳脊髄炎などの重い副反応がみられることがあります。

🐣 どのように感染しますか？

このウイルスはブタなどの動物の体の中で増えて、コガタアカイエカ（夕方から活動を始める蚊で、水田や沼地を好みます。やぶ蚊とは違います。）が、その血を吸って人を刺した時に感染します。人から人へは感染しません。潜伏期間は6～16日です。



🐣 接種が遅れてしまった人はどうしたらよいですか？

接種が遅れて接種の間隔があいても次の接種は有効で免疫ができますので、最初から接種しなおす必要はありません。速やかに次の接種から始めてください。

なお、2005年（平成17年）からしばらく積極的勧奨の差し控えの時期があり、日本脳炎ワクチンの接種が受けにくかった世代の人（特例対象者：1995年4月2日～2007年4月1日生まれ）については、20歳未満まで接種できます。

また、2007年4月2日から2009年10月1日生まれの人は、接種が完了していない残りの回数について、定期接種の年齢の範囲内で接種を受けることができます。

♥️ ワクチンが接種できない人は誰ですか？



接種を受けることができない、いわゆる接種禁忌の人

- 明らかな発熱を認めた場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ワクチンの成分によってアナフィラキシー（重いアレルギー反応）を起こしたことがある場合
- 上記以外で予防接種を行うことが不適當な場合



接種を受けるにあたって注意が必要な人 接種前にかかりつけ医によく相談しましょう

- 心臓・血管・腎臓・肝臓・血液に持病がある人、発育に障害がある人
- これまでの予防接種で接種後2日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を認めた人
- 過去にけいれんの既往がある人
- 過去に免疫不全の診断がなされている人
- 先天性免疫不全症の病気をもっている近親者がいる人
- ワクチンの成分に対してアレルギー反応を起こすおそれのある人

